

令和6年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を選ぶ問題はよくできている。
- 文中の主語と述語との関係を捉え、主語として適切なものを選択する問題はできている。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で文脈より正しく意味を理解し書く問題に課題がみられる。未回答の児童が2割近くいる。

【算 数】

- 直方体の見取り図について理解し、正しい見取り図を選択する問題はよくできている。
- 円グラフの特徴を理解し、2番目に多い項目の割合を読み取る問題はできている。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題に課題がみられ、未回答の児童が1割以上いる。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 「友達関係に満足している。」と回答している児童が多い。
- 学習の中で分からないことがあった時に、PC・タブレットなどのICT機器を活用して、すぐに調べることができるよさを、9割近くの児童が感じている。
- 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴、ゲームをしている時間が全国に比べて長い。
- 大人から自分のよさを認めてもらえている実感が低い児童の割合が高い。また、困った時に大人に相談できずにいる児童の割合が高い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・学力向上委員会（学力向上コーディネーター）を核とした、組織的な取組の推進と分析
- ・算数科、国語科において、各学年の課題に沿った「チャレンジタイム」の全校実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・数や図形などの概念形成の段階における具体物操作の機会やICTによる視覚資料の充実
- ・全ての教科領域において、「読んで、意味を理解する」取組を進め、書かれている内容や問題文の意味理解の力を高める。

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・毎月の目標の中に『今月のあったか言葉』を入れ、言葉への意識付けを図る取組
- ・タブレットによる一斉授業や個別課題に応じたドリル学習の全学級での推進

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・生活リズムの大切さ、SNS使用のルールづくり、家庭学習の習慣化を児童と家庭へ啓発する機会の確保
- ・学習の達成感や、生活の充実感を得ることができる教師による関わりの充実